

ノルウェー語・ブークモールの単開音節動詞の分類

久保 さやか

ノルウェー語を学ぶ際すでに、同語派、西ゲルマン語のドイツ語や英語を学習した経験があれば、北ゲルマン語に属するこの言語についてもわりと親しみがもてるだろう。文法体系はおろか、語彙についても既習言語の単語の知識が生かせることは多い。例えば、stige「のぼる」という動詞も、ドイツ語の *steigen* の意味を知っていれば、容易にその語の意味が予測できる。また、drive「駆りたてる」についても、すぐに英語の *drive*、ドイツ語の *treiben* に相当することが分かる。

ところが、このように他のゲルマン語の語を知っているがゆえに違和感が生じてしまう現象がある。ha という語についてはどうだろうか。一見、意味の予測のつかないものであるが、この語が「持つ」という意味を持つ動詞であることを知れば、やすやす英語の *have*、ドイツ語の *haben* を連想し、納得するところである。しかし、何か物足りなさを感じる。-ve、-ben に相当する部分が無いのである。ri「馬に乗る」についても同様である。英語 *ride* の -de に当たる子音が欠けている。ノルウェー語、特にブークモール(*bokmål*)にはこのような一見不自然な単¹開音節の動詞が多い。ここではそれらの語にはどのような特徴があるかを調べてみたいと思う。

まず、ノルウェー語は 1380 年から 1814 年までデンマークとの連合下にあったため、その間デンマーク語を書き言葉としていたことを考慮にいれなくてはならない。そのうえ、二つの公用語のうちの一つ、ニューノルスク(*nynorsk*)は古いノルウェー語の形を残す、西ノルウェーの諸方言を元にして創造されているのに対して、ブークモールはデンマーク語の

1 この種の動詞には、実際多音節のものもあるが、接頭辞(ドイツ語では前つづり)を除いて一音節と数える。例えば、*bety*「意味する」(*dä. betyde, dt. bedeuten*)もこの類

書き言葉にノルウェー語の話し言葉が反映された形をとっている。従ってブークモールを扱うときはデンマーク語と比較することは避けられないであろう。そこで、問題の形態を持つブークモール（以下 Bm.）の語を挙げ²、デンマーク語（以下 Dä.）のそれらの相当語と照らし合わせてみる³と、大きく二つに分類できる。デンマーク語においては本来予測される第二音節が保たれている語群と、ブークモール、デンマーク語においてともに単開音節である語群である。

デンマーク語では第二音節が保たれているブークモールの動詞は、以下の通り、そのデンマーク語の第二音節の子音に従って⁴、三種類に分けられる。

a) デンマーク語において-de をもつ語

Bm.	be	頼む	Dä.	bede
	bla	めくる		blade
	blø	出血する		bløde
	bre	タールを塗る		
	by	申し出る		byde
	flø	流れる		flyde
	fø	食べさせる		føde
	gla	（太陽が）沈む		
	gle	喜ばせる		
	gli	滑る		glide
	glø	光る		gløde
	gni	こする		gnide
	grø	育てる		
	kle	着る		klæde

いの二音節の動詞であるが、接頭辞の be-を除いて単音節と見なす。

2 Haugen (1984)より収集。

3 Henningsen (1956)より収集。

4 該当するデンマーク語の語がない場合には、ブークモール内において併用される形態や、ニューノルスクの語から判断した。

ノルウェー語・ブークモールの単開音節動詞の分類

kvi	ぶつぶつ言う	
la	させる	lade
la	積む	lade
li	進める	lide
li	被る	lide
lø	積み重ねる	
nø	強いる	nøde
ri	馬に乗る	ride
rå	忠告する	råde
ska	損害を与える	skade
skri	滑る	skride
smi	(鉄を)鍛える	
spa	踏みすきで掘る	
ste	埋める	stede
stri	闘う	stride
svi	痛める	svide
tre	踏む	træde
træ	糸を通す	træde
bety	意味する	betyde
va	歩いて渡る	vade

b) デンマーク語において-ve をもつ語

Bm.	fly	飛ぶ	Dä.	flyve
	gi	与える		give
	ha	持つ		have
	bli	～になる		blive
	skru	ねじる		skrue ⁵

c) デンマーク語において-ge をもつ語

Bm.	dra	引く	Dä.	drage
	si	言う		sige

5 デンマーク語において-ve で構成されていないが、併用される形態が skrue なので b) に分類した。

su	吸う	suge
ta	取る	tage

Bm. la 「させる」(Dä. lade)、Bm. ta 「取る」(Dä. tage)の併用形はそれぞれ late と take で、デンマーク語の第二音節子音と異なる。また語源的に見ても、デンマーク語の有声子音のほうが例外である。にもかかわらず単音節化されているということは、この現象は語源的な原因によるものではなく、飽くまでもデンマーク語の発音の影響下にあることを示している。

デンマーク語の -de、-ve、-ge の発音の聞こえが弱まったことが原因でブークモールの書記法に現れないとすれば、まず強アクセントのない末音の e の弱化に始まり、次に d、v、g 音が硬化し、あるいは半母音化して聞こえ度が弱まったとも考えられる。しかしこの語末母音の弱化は強弱アクセントをもつドイツ語などにおいて考えられることであって、同ゲルマン語内でも、ノルウェー語はいわゆる音楽アクセントを持つことを考慮すれば、末音の母音は比較的保たれるものと思われる。また、実際にブークモールでの末音の e は非常にはっきりと発音されている。従って第二音節内において母音のほうに第二アクセントが集中し、その結果子音と母音の結合が弱まり、母音が明確化されるためにわたり音の特色を帯びると同時に、強勢のない子音は後続の子音的要素の強くなった母音に吸収されたと考えるほうが妥当であろう。実際に v 音、摩擦音化すれば g 音も半母音になりやすい。d 音についてはこの場合、破裂性の弱いものと推測できる。そして残った第二音節の母音 e が先行する第一音節の母音と同化するのではないのだろうか。そうすれば、Dä. binde 「結ぶ」や bringe 「もたらす」などの第一音節が閉音節であるものは単音節化しないことが説明できる。

しかしながらデンマーク語において開音節とこれらの第二音節で構成されるすべての語がブークモールにおいて単音節になるわけではない。例：Dä. bide - Bm. bite、Dä. hive - Bm. hive、Dä. stige - Bm. stige。こうなると、発音が原因であることは無視できないにしても、正書法の問題の大きいことを思わずにはいられない。しかし、ここでは正書法の問題は取り扱わず、分類と考察に止めておきたい。

ブークモール、デンマーク語において単開音節である動詞については、比較対象としてきたデンマーク語が同形なので、さかのぼって古ノルド語（以下 An.）と比べてみた。

An.	flá	Bm.	flå	皮を剥ぐ	Dä.	flå
	fá		få	手に入れる		få
	ná		nå	到達する		nå
	sjá		se	見る		se
	slá		slå	打つ		slå
	spá		spå	予言する		spå
	sá		så	種をまく		så
	tjá		te	見せる		te
	glóa		glo	見とれる		glo
	gróa		gro	育つ		gro
	róa		ro	漕ぐ		ro
	skúia		sko	靴を履かせる		sko
	snúa		sno	吹き荒ぶ		sno
	trúa		tru	信じる		tro
	búa		bu	住む		bo
	deyja		dø	死ぬ		dø
	*gryja		gry	夜が明ける		gry
	kleyja		klø	ひっかく		klø
	hlæja		le	笑う		le
	spyja		spy	嘔吐する		spy
	*streyja		strø	撒く		strø
	syja		sy	縫う		sy
	þeyja		tø	溶ける		tø
	snjófa		snø	雪が降る		sne
	þyða		ty	頼る		ty

古ノルド語においては、*á* を *a+a* と解釈すれば、ほとんどの語が二音節から成っているとすることができる。さらに詳しく規定すると、開音節 + (半)母音が成り立っている。また語根の再建できる強変化動詞を取

り上げてみると、An. fá < *fanha-、An. slá < *slaha のように本来二音節であったことが分かる。しかも第二音節の子音は消失、あるいは同化のため残されていない。この現象は先述のブークモール・デンマーク語間のそれに似ている。

古ノルド語形が認められないもの

Bm.	gå	行く	Dä.	gå
	kny	文句を言う		kny
	kro	膨らませる		kro
	skrå	斜めに切る		skrå
	sky	避ける		sky

中高ドイツ語(mhd.)からの借用によるもの

Bm.	fli	整頓する	Dä.	fly
	fri	自由にする		fri
	skje	起こる		ske

そのほか相当する語がデンマーク語に見られないもの（方言による異形態語を含む）

Bm.	bry	悩ませる
	frø	種をまく
	gnu	こする
	klå	ひっかく
	knå	こねる
	kre	枝に刺す
	kry	～でいっぱいになる
	ru	ざらざらにする
	ry	ふりかける
	skre	斜めに切る
	skri	滑る
	snu	ひっくりかえす
	spe	薄める
	spri	斜桁で帆を揚げる
	stø	安定させる
	trå	歩く

tå ほぐす

単音節化される語とされない語にはどのような違いがあるのだろうか。単に発音上の違いにその原因を求めようとしても無理であろう。恐らく正書法によって、人工的に便宜が図られているかもしれない。いずれにしても単音節化を引き起こした子音、d、v、g は、デンマーク語、ブークモールにとって非常に特徴的な発音を示すことは明らかである。また、この現象がブークモールの音楽アクセントに拠るものであるとすれば、同じような現象の見られたゲルマン基語と古ノルド語の間にもアクセントの違いが想定できるだろう。

【参考文献】

- Falk, H. S. u. Torp, A. : *Norwegisch-Dänisches etymologisches Wörterbuch*. 2. Auflage. Universitetsforlaget. Oslo. 1960.
- Haugen, E. : *Norsk-Engelsk Ordbok*. 3. utgave. Universitetsforlaget. 1984.
- Henningsen, H. : *Langenscheidts Taschenwörterbuch, 1. Teil. Dänisch-Deutsch*. Langenscheidt. Berlin. 1956.
- Nielsen, N. G. : *Dansk Etymologisk Ordbog, ordenes historie*. 2. Oplag. Gyldendal. København.
- Seebold, E. : *Vergleichendes und etymologisches Wörterbuch der germanischen Starken Verben*. Mouton. Den Haag und Paris. 1970.
- 森 信嘉 『ノルウェー語文法入門 ブークモール』大学書林 東京 1990。
- 山野辺 五十鈴 『自習デンマーク語文法』大学書林 東京 1986。